

「調査書」及び「学習の記録等通知書」作成要領

特別支援学校長、中学校長及び義務教育学校長並びに中等教育学校長は、「調査書」及び「学習の記録等通知書」の作成に当たっては、その客観性と信頼性を高めるために、校長を委員長とする調査書等作成委員会を設け、厳正を期するとともに、保管についても適正に行うこと。

なお、その提出に際しては親展扱いとする。

I 「調査書（様式2、様式2-2、様式-高2）」及び「学習の記録等通知書（様式3、様式3-2、様式-高3）」

「調査書（様式2、様式2-2、様式-高2）」として利用する場合は上段の「学習の記録等通知書」及び下段の「令和3年度埼玉県立・・・調査書の内容は、」を——線で消すこと。

また、「学習の記録等通知書（様式3、様式3-2、様式-高3）」として利用する場合は上段の「令和3年度・・・入学志願者調査書」を——線で消すこと。なお、この場合は公印の押印の必要はない。

II 「調査書」

《様式-幼2、様式2、様式2-2、様式-高2に共通する事項》

1 県立特別支援学校塙保己一学園・大宮ろう学園・坂戸ろう学園幼稚部の入学志願者は様式-幼2、県立特別支援学校高等部（以下「高等部」という。）の入学志願者は様式2、県立特別支援学校さいたま桜高等学園・羽生ふじ高等学園及び県立入間わかくさ高等特別支援学校（職業学科）（以下「高等部職業学科」という。）並びに県立川越特別支援学校川越たかしな分校・草加かがやき特別支援学校草加分校・大宮北特別支援学校さいたま西分校・越谷西特別支援学校松伏分校（以下「高等部分校」という。）の入学志願者は様式-高2を使用する。

なお、高等部の入学志願者のうち、訪問教育の対象者及び重度・重複障害のある入学志願者については、様式2-2の調査書を使用してもよい。

2 黒ペン又は黒ボールペンなどを用い、鮮明に記入する。なお、コピーしたものに公印及び記入責任者の印を押印して提出してもよい。また、ワープロなどにより作成したものも可とする。

3 記入する数字は、すべて算用数字を用いる。

4 記入上該当事項のない場合は、空欄とする。

5 訂正の場合は、——線を用い、欄外に「○○字訂正」と記し、公印を押印する。

6 受検番号の欄は、志願先学校で記入するので、提出の際は未記入とする。

7 「生徒氏名」は、ふりがなを付ける。なお、通称を用いてもよい。ただし、入学願書、調査書等の生徒氏名と同一のものを記入する。

8 「生年月日」は、年月日を記入する。

9 「卒業年月」は、卒業又は卒業見込のいずれかを○で囲み、年月を記入する。
(様式-幼2を除く)

10 過年度卒業生については、指導要録に基づいてその記載内容を適宜転記する。
(様式-幼2を除く)

なお、特別支援学校及び中学校並びに義務教育学校において指導要録が廃棄されている場合は、提出を要しない。その場合は、出身中学校長等の作成した卒業証明書を出し提出する。

- 11 下の欄には、「学校名」及び「校長氏名」を記入し、公印を押印する。「記入責任者氏名」は、原則として学級担任（複数担任の場合は主担任）の氏名を記入し、押印する。（様式2、様式2-2、様式-高2）

様式-幼2の記入責任者については、保護者でもよい。なお、専門機関等において作成する場合は、記入責任者の職名を記入する。

《様式2、様式-高2の作成について》

1 各教科の学習の記録

(1) 令和3年3月中学校卒業見込者の場合

ア 高等部を志願する場合の「評定」は、第3学年の成績は、第1学期及び第2学期の成績によって判定するものとする。

ただし、2学期制をとる学校の第3学年の成績については、いずれも「前期」の成績によって判定するものとする。

イ 高等部職業学科及び高等部分校を志願する場合の「評定」は、各教科別に、第1学年、第2学年の評定及び第3学年の成績を5段階で評定欄に記入する。この場合、第1学年、第2学年の各教科の評定は、指導要録に記載されている評定とし、第3学年の成績は、第1・2学期の成績によって判定するものとする。

ただし、2学期制をとる学校の第3学年の成績については、いずれも「前期」の成績によって判定するものとする。

ウ 在籍学級の記入について、下記に従い「備考」の当該記号に○を付ける。

- ・通常学級在籍者は（通）
- ・知的障害特別支援学級在籍者の場合は（知）
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級在籍者の場合は（自）
- ・その他障害種の特別支援学級在籍者は（他）

特別支援学校に在籍する場合は、「備考」の欄に一般学級、重複学級、訪問学級を記入する。

(2) 各教科の評定が行われていない学校にあっては、この欄の記入を省略することができる。

(3) 過年度卒業生の場合

「評定」は、指導要録に記載されている各学年の評定を評定欄に記入する。「備考」の（過）に○を付け、(1)ウに則り、卒業時に在籍していた学級に○を付ける。

2 国語の記録

各教科の「評定」及び選択教科の「評定」の欄に記入できない場合、又は記入したが補足する必要がある場合に簡潔な文章で記述する。

3 数学の記録

各教科の「評定」及び選択教科の「評定」の欄に記入できない場合、又は記入したが補足する必要がある場合に簡潔な文章で記述する。

4 その他の教科の記録

各教科の「評定」及び選択教科の「評定」の欄に記入できない場合、又は記入したが補足する必要がある場合に簡潔な文章で記述する。

5 日常生活の指導の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に記録・観察された事項に基づき、学習の状況や成果等についての評価等を観点別に整理して、簡潔な文章で記述する。

ただし、日常生活の指導を行っていない場合は、記入する必要はない。

〈例〉 排泄・食事・着脱・衛生に関すること等

6 生活単元学習の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に記録・観察された事項に基づき、学習の状況や成果等についての評価等を簡潔な文章で記述する。

ただし、生活単元学習を行っていない場合は、記入する必要はない。

7 作業学習の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に記録・観察された事項に基づき、学習の状況や成果等についての評価等を簡潔な文章で記述する。

ただし、作業学習を行っていない場合は、記入する必要はない。

8 自立活動の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に記録・観察された事項に基づき、学習の状況や成果等についての評価等を簡潔な文章で記述する。

ただし、自立活動の時間における指導を行っていない場合は、記入する必要はない。

9 総合的な学習の時間の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に記録・観察された事項に基づき、学習の状況や成果等についての評価等を簡潔な文章で記述する。

10 特別活動の記録

第3学年の1学期、2学期（2学期制にあつては前期）を中心に、各内容ごとの趣旨に照らして十分満足できる状況にある事項について、具体的に記入する。また、部活動や学校内外における活動あるいは特技等について、その活動状況や事実を記入する。

11 出欠の記録

(1) 「欠席日数」は、指導要録に記載されている日数を記入する。ただし、在籍する志願者の第3学年分については12月末日までの日数を記入する。

(2) 「欠席の主な理由」は、各学年ごとに欠席日数の合計が10日以上のものについて、その主な理由を記入する。

12 その他

「新体力テスト」の結果を記入する。また、記載事項以外で参考となる事項又は、「産業現場等における実習」などの就業体験の記録を記入する。

《様式2-2の作成について》

1 各教科の学習の記録

様式2、様式一高2と同様とする。

2 各学習の記録

学習活動全般にわたって見られる顕著な事項について具体的に文章で記述する。その際、健康や医療面について払うべき配慮事項についても記載する。

- 3 特別活動の記録
様式2、様式一高2と同様とする。
- 4 出欠の記録
様式2、様式一高2と同様とする。
- 5 その他
記載事項以外で参考となる事項又は、特記すべき事項がある場合には記入する。

《様式一幼2の作成について》

- 1 相談の経緯
幼稚園に志願するに至るまでの間に関わった医療機関、相談機関、教育機関、その他専門機関の名称やその内容について、簡潔に記入する。
- 2 障害の状況
診断又は観察された障害の種類や程度・状況等について、具体的に記入する。
- 3 生活の状況
食事、排泄、睡眠、衣類の着脱等の日常生活の様子について具体的に記入する。
また、養育に関する心配や相談したい事項があれば記載する。
- 4 その他
服薬、運動制限等、生活の中で配慮を要すること、その他記載事項以外で参考となる事項がある場合には記入する。

Ⅲ 学習の記録等通知書

「学習の記録等通知書」は、「Ⅱ 調査書」に定めるところにより作成する。
ただし、「学習の記録等通知書」（様式3又は様式3-2、様式一高3）の内容は、調査書（様式2又は様式2-2、様式一高2）の内容と同一とする。
なお、「学習の記録等通知書」は、高等部、高等部職業学科及び高等部分校の入学選考について適用する（幼稚園入学相談は除く）。